

岐阜新聞 2026年03月14日付 県内

気になるニュース わたしの視点

2日付の県内版に「森業セミナー」の記事が掲載され、森林整備の基盤となる林道や作業道をトレッキングなどのアクティビティーに活用していく取り組みが紹介されていました。「単なる利益追求ではなく、山を大切に思う人々との協業が長期継続の鍵」という発言も掲載されていました。

最近「ステイクホルダー」という言葉がよく使われるようになりました。企業などの利害と行動に直接的・間接的に関係する人々や組織を意味します。具体的には消費者（顧客）、労働者、株主、専門家、債権者、仕入れ先、得意先、地域社会、行政、業界団体などを指します。「企業の社会的責任」などの考え方が拡がる中で、社会の一員としてどんな活動ができるかが問われる時代になってきたことも背景にあります。



道家経営・法務事務所代表 道家睦明さん

森業セミナー

「協業」で新しい時代に対応

森林管理とMTB 両輪

川辺町で先進事例学ぶセミナー



林道や作業道、アクティビティーに活用

森林整備の基盤となる林道や作業道、アクティビティーに活用。川辺町で先進事例学ぶセミナー。道家睦明さん（左）が講演。写真：岐阜新聞

3月2日付3面より

かつてステイクホルダーと企業の関係は一对一の関係で考え、各ステイクホルダーにどう対応すべきかといった発想が中心でした。しかしながら、この記事にあるように、

.....

どうけ・むつあき 1965年、羽島郡笠松町生まれ。慶応大商学部卒。中小企業診断士、行政書士。広告会社勤務を経て、道家経営・法務事務所代表取締役。県中小企業診断士協会会長。笠松町在住。

相互に連携し合うという意味での「協業」という視点が注目されるようになってきました。特に「お客さま」との協業に注目が集まっています。

例えば、飲食店でお客さまの声を基に作ったメニューをお客さまの名前を使って販売し、売り上げに応じてロイヤリティーを支払う事例も出てきています。演劇プロダクションでは、演出家などに指導を受けて舞台上がるように

なっただ中学生が、次は小学生を指導する役割を担い、劇団全体で演技力を育てていくということも始まっています。

記事では、林道を利用するマウンテンバイク（MTB）のライダーが点検に協力することで、森林を管理する方々と「協業」していることについて書かれていましたが、お客さまに企業の事業展開に参画していただくスタイルは、事業展開の新たなきっかけづくりとなっていくのではないのでしょうか。ステイクホルダーを単なる利害関係者として捉えるのではなく、共にステイクを創り出す「ステイクリエーターチーム」として見直すことで、新しい時代の企業の姿を考えてみてはいかがでしょうか。

（引用記事は岐阜新聞デジタルの紙面ビューア14日付朝刊最終面に掲載）

©岐阜新聞